

改善提案 自己採点用紙

全14項目・100点満点・合格65点
実採点データ:4期45名(2022-2025年)

提案書を受け取った人は、それを読んで「やるかどうか」を決めなければなりません。この数字は信用してよいのか。なぜそうなっているのか。他の仕事より先にやる理由はあるのか。うまくいかなかったとき、どう畳むのか。この用紙の14項目は、その受け取る側が確かめたいことを並べたものです。研修の採点表として4期使ってきたもので、配点も45名分の採点結果もそのまま載せています。自分の提案書を1枚ずつめくりながら、右列に心当たりのあるものへ印を付け、いちばん右の欄に自己評価を書き入れてください。提案が通らない理由は、たいてい内容の良し悪しではなく、受け手が探している情報のどれかが、単に書かれていないことです。

45名平均 69.4点 最低51～最高81点。読めない提案書はほとんどない。つまり差がつく場所に限られている。	満点者ゼロの項目 7 ／14項目 半数の項目は45名の誰も満点に届いていない。受け手がいちばん知りたいことほど、答えにくい。	4項目に集中する失点 13.1点 3～5・7番だけで失う点。提案書側の失点の6割が「分析から施策へ渡す」区間にある。	書き忘れの代償 0点 8・9番は決裁の条件そのもの。それなのに最も書き忘れられている。合わせて10点。
--	---	---	--

番号	項目	配点	平均	最高	受け手に伝わらなくなる書き方 — 心当たりのあるものに印を	自己採点
----	----	----	----	----	-------------------------------	------

第1部 提案書だけで確かめられる9項目 70点／45名平均 49.6点

1	与件の整理	5	4.4	5	☐ データを載せたページに集計期間が書かれていない。冒頭を読んでも「何を・いつ・なぜ」分析したのかが分からない。	
2	データ取得	5	3.8	5	☐ 指標の定義を取り違えている（人数とセッションの混同、離脱と直帰の混同など）。 満点は45名中2名のみ。	
3	データ分析	10	6.9	9	☐ グラフを貼っただけで気づきが書かれていない。 ☐ 提案に関係のないデータまで載せて論点がぼやけている。	
4	気づきと考察	10	6.6	9	☐ 仮説が仮説のまま置かれている。手元のデータで裏を取れるのに、確かめずに次のページへ進んでいる。	
5	分析からの施策	10	6.6	8	☐ 分析と無関係な思いつきの施策が混ざっている。 ☐ どの気づきがどの施策になったのかの対応表がない。	
6	施策詳細	10	7.9	9	☐ 施策が文章の箇条書きだけで終わっている。ビフォー／アフターの図や画面イメージがない。	
7	施策の説得力	10	6.8	9	☐ 期待効果の試算がない（対象母数×改善率、年間インパクト換算）。実行するかどうかを判断できない。	
8	施策の優先順位	5	3.4	5	☐ 優先順位そのものがない（0点）。 ☐ 順位はあるが「重要だと思うから」で、基準が主観的。	
9	施策の評価	5	3.3	5	☐ 「効果を見ます」で終わっている（0点）。施策ごとの評価指標・計測方法・評価時期が決まっていない。	

第2部 その場で確かめられる5項目 30点／45名平均 19.8点 ※提案書だけを見る場合は採点対象外

10	内容との齟齬	5	3.8	5	☐ 重要なことを口頭だけで補足している。資料は口頭説明なしで独立して読めなければならない。	
11	資料のみやすさ	10	7.5	10	☐ 気づきを書く位置がページごとにバラバラ。 ☐ 画面キャプチャに、どこを見ればいいのかの印がない。	
12	時間内の完了	5	3.6	5	☐ 持ち時間を超過。 4割が満点を落としている が、リハーサル1回で確実に取れる5点。	
13	コミュニケーション	5	1.4	3	☐ 最初から最後まで一方通行。問いかけも、視線を誘導する一言もない。 45名の最高が3点の最難関。	
14	質疑応答	5	3.6	4	☐ 回答に根拠がない、または質問の意図を確認せずに答え始めている。	
合 計		100	69.4	81	合格ライン65点。印が3つ以上付いたなら、内容ではなく書き漏らして落ちている見込みが高い。	

※ 平均・最高は、2022年から2025年にかけて実施した4期の最終提案レポート45名分の実採点値(匿名化済み)。合格率は91%、平均69.4点。つまり大半の提案は「読めるが、動かない」水準に収まっている。
※ 特定の分析ツールに依存する項目は2番のみで、他の13項目はツールを問わず使える。

受け手が何を確かめ、どう書けば伝わるかは**次ページ**に。

各項目を「落ちる書き方／通る書き方」の対比で解説し、実例の提案書2種・提案書テンプレート・自己採点シートを付けた本編『**通る改善提案の型**』（全31ページ）があります。

小 川 卓
HAPPY ANALYTICS
happyanalytics.co.jp

14項目 受け手は何を確かめ、どう書けば伝わるか

第1部 提案書だけで確かめられる9項目 70点

1 与件の整理 5点／平均4.4／最高5	対象サイト・分析期間・分析の目的を冒頭で示し、何をどの範囲で見た報告なのかを読み手に把握させる。 加 点 3点セットに加えて、デバイスや除外条件などの前提まで書く。データを載せた全ページに集計期間を再掲する。ほぼ全員が4点以上を取る項目のため、落とすと相対的に不利になる。
2 データ取得 5点／平均3.8／最高5	施策を導くのに必要なデータを、正しい指標定義で取得できているか。数値そのものの誤りも見ろ。 加 点 定義の取り違えが1つでもあれば4点で頭打ち。 <u>イベント／セッション／ユーザーのどの単位で見るべきかを設問ごと</u> に選り分けて、初めて満点に届く（45名中2名）。
3 データ分析 10点／平均6.9／最高9	取得したデータから定量的な気づきを導いているか。グラフの有無ではなく、数値の差分を読めているかを見る。 加 点 セグメント比較・時系列・ファネルなど <u>複数の切り口を重ねる</u> 。1ページに必ず1つ気づきを書き、提案に効かないデータは載せない。枚数ではなく1枚の密度で8点以上に届く。
4 気づきと考察 10点／平均6.6／最高9	気づきを深掘りして原因の特定まで進めているか。気づきと考察が区別されているか。 加 点 「 <u>気づき→深掘り検証→原因</u> 」の3段を1本の線でつなぐ。仮説を置いたら必ず手元のデータで裏を取る。深掘りが1段で止まると6～7点帯から出られない。
5 分析からの施策 10点／平均6.6／最高8	施策が分析結果から導かれているか。根拠のない思いつきが混ざっていないか。 加 点 全施策を気づきと1対1で結び、その <u>対応関係を表にして資料へ載せる</u> 。10点満点で9点すら出ていない最難関。読み手が対応を探さなくてよい構成にすることが唯一の突破口。
6 施策詳細 10点／平均7.9／最高9	改善案の実装イメージが伝わるアウトプットになっているか。 加 点 全施策に ビフォー／アフター のモックかワイヤーを付ける。文章だけの施策が1つ残れば8点止まり。10点項目で最も平均が高く、手を動かせば確実に稼げる。
7 施策の説得力 10点／平均6.8／最高9	読み手が「これはやろう」と判断できる材料が揃っているか。 加 点 <u>対象母数×改善率で期待効果を試算し、年間インパクトへ換算する</u> 。数字を置けない施策は事例や競合比較で代替する。実行を判断できるかどうかが分岐点。
8 施策の優先順位 5点／平均3.4／最高5	明示された根拠のもとづいて、施策に順番が付いているか。 加 点 <u>インパクト×工数のマトリクスか一覧表</u> にし、判断基準を文字で書く。「重要だと思うから」は主観として減点。書き忘れれば0点、書けば確実に取れる最も安い5点。
9 施策の評価 5点／平均3.3／最高5	実施したあと、成否をどう判断するかが決まっているか。 加 点 施策ごとに「 <u>直接評価指標・計測方法・評価タイミング</u> 」の3点セットを書く。施策一覧に列として持たせると漏れない。「効果を見ます」だけでは0～2点。

第2部 その場で確かめられる5項目 30点

10 内容との齟齬 5点／平均3.8／最高5	資料の記載と、口頭で説明した内容が一致しているか。 加 点 話す予定の重要ポイントを <u>事前に資料へ書き戻す</u> 。資料が口頭説明なしで独立して読め、かつ話す内容がすべてそこにある状態が満点。
11 資料のみやすさ 10点／平均7.5／最高10	読み手が迷わず追える資料設計になっているか。 加 点 <u>気づきの記載位置を全ページで固定</u> し、キャプチャは赤枠やハイライトで視線を誘導する。定量課題と定性課題を混ぜず、サマリー→詳細の順に構成する。満点は45名中2名。
12 時間内の完了 5点／平均3.6／最高5	持ち時間内にプレゼンを終えられたか。時間内なら満点、超過すると大きく落ちる。 加 点 <u>通しのリハーサルを1回</u> やるだけで取れる。45名の4割が満点を落としており、準備の有無がそのまま点差になっている。
13 コミュニケーション 5点／平均1.4／最高3	聴き手への働きかけがあるか。ただの読み上げになっていないか。 加 点 45名の最高が3点、平均1.4の最難関。冒頭で「 <u>ここを見てください</u> 」と視線を誘導し、要所で「 <u>ここまでよろしいですか</u> 」と確認を入れる。この2つだけで平均を大きく上回る。
14 質疑応答 5点／平均3.6／最高4	質問に的確かつ根拠を持って答えられているか。 加 点 質問の意図を一度確認してから、根拠となるデータのページに戻って答える。簡潔さと根拠の両立が4点の条件。満点は45名中ゼロ。

まず8番・9番を埋め、次に5番の対応表を作る。この3つで最大20点、いずれも書き方が決まっております分析をやり直す必要はありません。
その先の3・4・7番は、分析の進め方そのものを変える必要があります。ここを扱った本編を準備中です。